

ガーナ（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ガーナ日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
1	1	300	1	1	300	0	0	0	1	4	80	2	6	680

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

ガーナでは、1992年に日本留学経験のあるガーナ人講師が初等教育機関である Good Shepherd Academy で日本語教育を開始した。その後、1994年にガーナ大学附属レゴン国際関係学センター（LECIAD）の日本語コースが開講された。以降、初等教育機関や高等教育で日本語教育が開始され、2017年にガーナ大学アジアセンターで日本語コースが開講、また、日本人が経営する民間の日本語学校もアクラに開校している。その後も日本への元留学生などを講師としアクラ市内及び近郊の小・中学校などで希望者に対する日本語教育が実施されるようになった。しかし、2020年に新型コロナウイルスが拡大した影響により、すべての学校で日本語教育が休講となった。

その後、LECIADでは他の言語コースは再開されたものの日本語コースは教師の確保ができず、休講のままとなっていることに加え、小・中学校での日本語教育も再開されないままである。日本人経営の民間日本語学校は

再開されており、技能実習生としての渡航を目的とした日本語能力試験対策が行われている。また、日本の支援でクマシ近郊に建設された職業訓練校で日本語教育が行われている。

背景

学習の動機としては、日本の文化、政治、経済、社会などについての関心、日本語そのものへの興味、日本へ留学するため、などが主な理由である。特にアニメや漫画の影響は大きく、日本のアニメに関するイベントなども実施されている。また、近年では日本あるいは日本企業での就労を目的とした日本語学習者が増えている。

特徴

ガーナには日本語教師としての特別な資格はなく、日本滞在経験のあるガーナ人教師が講師を務めることが多い。政府としてカリキュラムに日本語学習を導入するような動きはなく、日本・日本語に興味のある人が民間の日本語学校で学習している。また、前述のように、日本での就労を目的としたガーナの人も多く、技能実習生として日本への渡航を目指すための日本語の授業が実施されている。

最新動向

新型コロナウイルスの影響で休講となったコースは、日本語教師の確保が困難なことから再開されないままである。一方、新たな民間の日本語学校の開設により、日本での就労を目指した日本語学習者が増加しており、2025年度の日本語能力検定の受験者数は2024年度の倍以上となっているものの、その合格率はかなり低い。また、学校には通っていないが、アニメ、マンガやインターネットを通じ日本語を学ぶガーナ人も複数おり、日本語学習者の増加が期待される。

教育段階別の状況

初等教育

国際交流基金（JF）の研修で日本に滞在した経験のあるガーナ人教師が、アクラ市内の私立小・中一貫校において日本語授業を実施している。この小・中一貫校において日本語授業を受けている生徒総数は約300名で、教師数は1名である。

中等教育

上記【初等教育】参照。

高等教育

2024年5月から、SDGs Promise Japan Ghana が運営し、日本の支援で建設された職業訓練校（石工、大工、排水管理や雨水利用などを含む配管・タイル工事などを指導）にて日本語授業が実施されている。この学校では、ガーナ現地語の一つであるチュイ語により、日本への留学経験のあるガーナ人講師が日本語の指導を行っており、学習者数は12名である。

その他教育機関

日本人が運営する NGO 「Akwaaba Nippon Foundation」にて、日本人教師により指導が行われている。現在

は、技能実習生として日本に渡航することを目指し日本語能力試験 N4 の合格を目的とした指導が行われており、生徒数は 50 名程度である。年齢層は 20 代から 30 代となっている。2024 年 9 月にガーナ労働省よりガーナ人材国際送り出し機関として認可を受け、これまで 5 名が技能実習生として日本に渡航している。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

幼稚園 2 年間、小学校 6 年間、中学校 3 年間、高等学校・専門学校が 3 年間。高等教育機関は大学（4 年間。医学部のみ 6 年間）、技術専門学校（3 年間）がある。幼稚園 2 年間、小学校 6 年間及び中学校 3 年間の計 11 年間で義務教育とされている。

ガーナでは、児童・生徒の就学開始年齢は親の経済力などによって異なるが、4～6 歳から小学校教育を開始するのが一般的である。同様に、一般的には、12～13 歳で中学校、15～16 歳で高校に通学し始める。

教育行政

いずれも教育省の管轄下にある。

言語事情

公用語は英語。その他、ガ語、チュイ語、アカン語、ハウサ語など、多数の部族語がある。小学校、中学校では、これらの現地語の教育を行うことが必須になっており、どの現地語を教えるかは各学校が決定する。高校では、現地語は選択科目である。

外国語教育

英語が公用語なので、小学校高学年から全ての授業が英語で行われる。中学校では、フランス語教師がいる学校においては、フランス語が必修科目となっている。高校では、フランス語は選択科目のひとつである。また、中国語の授業を行う学校も複数ある。ガーナ大学言語学部では、英語、フランス語に加え、アジアの言語としては中国語学部が設置されていることに加え、孔子学院が学内に設置されており、無償での中国語授業や、中国語を使用するパートタイムの仕事の斡旋などを行っている。ガーナ国内には多くの中国企業があり、就職先として目指す学生も多い。

外国語の中での日本語の人気

外国語の中で比較的人気が高いフランス語、ドイツ語などに比べ、日本語学習者の数は少ないが、日本語に興味がある、日本語を学習したい、などの問合せは増加している。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4.学習環境

教材

初等教育

教師が独自に作成した教材の他、JF の日本語教材寄贈プログラムにより寄贈された日本語教材も使用している。

中等教育

上記【初等教育】参照。

高等教育

教師が独自に作成した教材の他、JF の日本語教材寄贈プログラムにより寄贈された日本語教材（『げんき I』坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子著（ジャパントイズ出版））も使用している。

その他教育機関

教師が独自に作成した教材や、日本で購入した教材（『げんき I』坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子著（ジャパントイズ出版）及び『げんき II』坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子著（ジャパントイズ出版））などを使用している。

IT・視聴覚機材

（詳細不明）

5.教師

資格要件

初等教育

資格要件なし。JF の研修などで日本に滞在した経験のあるガーナ人教師が日本語を教えている。

中等教育

資格要件なし。JF の研修などで日本に滞在した経験のあるガーナ人教師が日本語を教えている。

高等教育

資格要件なし。JF の研修などで日本に滞在した経験のあるガーナ人教師が日本語を教えている。

その他教育機関

資格要件なし。JF の研修などで日本に滞在した経験のあるガーナ人教師が日本語を教えている。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムはない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

1名。上記 NGO「Akwaaba Nippon Foundation」の経営者を兼ねている。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修はない。

6.教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

ガーナ日本語教師会（[Association of Japanese Language Teachers, Ghana](#)）が2018年に設立された。

最新動向

年に2回実施される日本語能力試験の運営、また年に1回開催されるスピーチコンテストの運営を行っている。

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICAからの派遣は行われていない。

その他からの派遣

なし。

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

共通の評価基準や試験は確認されていない。

10.日本語教育略史

1992年	Good Shepherd Academy（初等教育）で日本留学経験のあるガーナ人教師により日本語教育開始（閉講）
1994年	ガーナ大学附属レゴン国際関係学センター（LECIAD）（高等教育）（休講中）
2004年	Mary Star of the Sea International School（初等・中等教育）（閉講）
2012年	St. Roses Senior High School（中等教育）（閉講）/St Peters Senior High School（中等教育）（閉講）
2017年	ガーナ大学アジア研究センター（CAS）（高等教育）（閉講）/アクラ日本語クラス（Akwaaba Nippon）（専門学校）
2018年	Regional Maritime University（高等教育）（閉講）/St. Karol Nursing School（高等教育）（閉講） ガーナ日本語教師会設立
2019年	Gerking Japanese Language School（その他）（閉講）
2024年	Manso Nkwanta Vocational Training Institute（高等教育）/ Kingdom Heirs Montessori School（初等・中等学校）

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunikitsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、**全角@マークを半角@マークに変更してください**）